

大築海島と冠島



- 冠島 立神岩 510.16km - 大沼浮島 - 大築海島 510.16km
- 冠島 立神岩 93.15km - 瓦屋寺 - 大築海島 93.15km
- 冠島 立神岩 93.1km - 古墳? - 大築海島 93.1km
- 冠島 立神岩 119.16km - 天台院 - 大築海島 119.16km
- 冠島 立神岩 159.96km - 射矢止神社 - 大築海島 159.96km

負頂角

大沼浮島 ※上記参照

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。



国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸につき動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。



右脇侍角

大築海島の南岬

島には大蛇がいると言われ、モリで殺された大蛇が近隣の菅島に流れ込んで「しろんご」と呼ばれるようになった。貝塚および弥生時代中後期の竪穴式住居の跡や土器などが出土している。

大築海神があったが、明治42年旧2月7日に小築海島の小築海神などと共に答志島の八幡神社に合祀された。毎年、6月中旬の天候・波・潮の好い日に小築海島以外の磯の初磯祭を斎行する。祭りのやり方は、小築海祭と同じで、開禁の合図の旗を八幡岬の沖で上げた後、大祓詞唱え、神酒・洗米を撒きながら大築海島を一周する。その後神饌用の鮑が獲れたら、八幡神社へ行き、祭典を斎行する。海女達は正月や神事・節分には、海岸に出て、御飯・膾・お神酒などを龍神さんなどの海の神に供えて祈る。http://www.geocities.jp/k_saito_site/album28.html
三重県鳥羽市答志町



左脇侍角

冠島立神岩

島内には老人嶋神社、船玉神社があり、日本海沿岸の漁師の崇敬あつく、昔から大漁祈願のため近在漁村から「雄鳥参り」の行事が行われる。

第二次世界大戦中に海軍は冠島聴測照射所を設置し、兵員が常駐した。冠島は奥島、恩津島、大島、老人島、雄島など異名が多い。大正十三年十二月九日（内務省告示第七七七号）オオミズナギドリ繁殖地として、天然記念物に日本で最初に指定された。

『丹後風土記残欠』に、

凡海郷。凡海郷は、往昔、此田造郷万代浜を去ること四拾三里。□□を去ること三拾五里二歩。四面皆海に属す壺之大島也。其凡海と称する所以は、古老伝えて曰く、往昔、天下治しめし大穴持命と少彦名命が此地に致り坐せし時に当たり、海中所在之小島を引き集める時に、潮が凡枯れて以て壺島に成る。故に凡海と云う。ときに大宝元年(701)三月己亥、地震三日やまず、此里一夜にして蒼海と為る。漸くわずかに郷中の高山二峯と立神岩、海上に出たり、今号つけて常世嶋と云う。亦俗に男嶋女嶋と称す。嶋毎に祠有り。祭る所は、天火明神と日子郎女神也。是れは海部直並びに凡海連等が祖神と斎所以也。(以下八行虫食) http://www.geocities.jp/k_saito_site/album28.html

「大本教」国祖の大神ご隠退の島 祭神/国常立尊 祖土の神 龍神



勝頂角

射矢止神社

品陀別命、息長帯姫命、天香山命、一言主命、宇賀魂命を祀る。

社伝によれば、神代の昔に五十猛命とともに天香山命と一言主命が紀伊国に天降り、名草山において「伊野止社」と称して崇められていたが、三韓征伐を終えて凱旋した神功皇后（息長帯姫命）が雄の湊（現和歌山市雄湊地区）に寄航した際に、日の御神が一言主命に命じて矢を射させ、その矢がこの地に落ち止まったために、皇后がその矢を拾って「射矢止八幡宮」を創祀、国家鎮護の神として崇めるようになったという。またかつては鳥居の傍らに「桜の井」という湧泉があり、役小角が当神社を信仰して顕密の法を修練したところであったという。

当神社境内や周辺畑地に弥生時代の遺跡があり、石鏃や土器が出土しているので、鎮座地六十谷が古くから開けた地であったことは分かるが、当神社との関係は不明。『紀伊国神名帳』名草郡地祇 30 社中の「従五位下 伊野土神」と見られ、近世には「伊也土神社」と呼ばれたほか、「いや大明神」、「射矢八幡」、「射矢止八幡宮」などとも称された。

和歌山県和歌山市六十谷 372



天台院

天台宗総本山である比叡山延暦寺の末寺。室町時代初期、朝廷が南朝・北朝に分裂していた頃の創建とされている。開基は文観上人と伝えられており、確証はないが河内長野市の天野山金剛寺に伝わる「釈摩訶行論」の奥書に、上人は 壮年四天王寺に遊び、また河内国に錫をとどめていた と記され、このとき 河内に小庵を結んだ とあり、その小庵が天台院であるとされている。

大阪府八尾市西山本町 2 丁目 5-8

古墳? 地図を見るとあきらかに人工的な山に見える。滋賀県東近江市小脇町

瓦屋寺

推古天皇代（592～628）聖徳太子が四天王寺創建にあたり当地で良質の土を発見して瓦を焼いたとある。日本に瓦博士が渡来してきたのは崇峻天皇元年（588）である。僧、仏舎利、寺工、鑪盤博士、画工達も共に来ている。聖徳太子の執政は推古天皇元年（593）からである。そして同二年仏教興隆の勅を発せられたのである。

箕作山入口に吉住池があり、陶土をだした跡とも云われ、その横に参道があるのだが、土地の方によれば千三百段余りあり森林の中を登ることになるという。

寺伝によると、太子が四天王寺（大阪市天王寺区）を建立する際、瓦屋寺山麓の良質な土に目を付け、瓦窯を整備。10万枚以上の瓦を焼いたことから、その名が付いたという。山麓には、飛鳥時代（7世紀）の瓦窯跡が確認されている。

滋賀県東近江市建部瓦屋寺町436。



備考

大沼浮島を封印して気を引く十字架型しくみ。大築海島の神社跡がどこかわからなかったが、地図の南側の岬に何度かぶつかってくるので間違いのないと思われる。瓦屋寺や阿賀神社とも近いので、それぞれこのしくみを目的に作ったのではないだろうか。

